

Moshi- Mosu

もっと知れば、
もっと好きになる！
長岡京市の歴史・文化財

V

Vol.24
2023
Winter

Join the future.

次の時代へ。共に歩み、共に守る。

未来への扉を開けて、一步踏み出そう。
歴史は過去の出来事だけでなく、未来に続く物語の一部でもある。いにしへの建物や過去を刻む文物、古き日の証は世代を超えて、未来へと脈々と続く。それは先人たちが気づかぬうちに文化財の守護者となり、未来への架け橋にもなったからだ。今を生きる私たちには何ができるのだろう——。
歴史はどこまでも続いていくのに、文化財は意識しないと失われることも少なくない。そんな世の中だからこそ、
「未来に参加しよう。」
その一步がきっと大きな力になって、未来を切り開いていく。



獅子口が欠損してる！？
文様がなくなってる…。

あみだ堂
阿弥陀堂（彌咎寺）
 彌咎寺は、大同元年（806）、浩東清水寺の開祖延鎮によって創建されたと伝わる。観音が広く信仰を集め、元禄6年（1693）に皇空聖海が入寺した頃から参詣の人々々にぎわうようになっていく。江戸時代中期以降、幾度も造営修理があり、寺観の整備が続けられている。阿弥陀堂は念仏堂とも呼ばれ、阿弥陀仏を祀る。現在の建物は文政12年（1829）に建立。内陣須弥壇に置かれた獅子は、実若寄造という伝承をもつ桃山様式のもの。



瓦の下を確認すると…



瓦屋根が波打ってる。



内部は雨漏りで、
量にカビやキノコが！！

JOIN THE FUTURE.

次の時代へ。共に歩み、共に守る。

指定・登録されている建物は、主に木造建築です。日本では古くから木や土を使って建物を造る文化があります。そのため、経年劣化により破損する部分が多く、何年度も修理をしながら現在まで受け継がれてきました。「文化財」と呼ばれる建造物は、その所有者たちによって日々維持管理されていますが、文化財としての価値を維持するためには、周期的なメンテナンスが欠かせません。指定・登録されたものは費用面で補助や助成の制度がありますが、所有者の負担は大きいもの。どうやって、次の世代へ貴重な文化財を残していけばいいのでしょうか。

保存修理
の
ステップ

- （令和5-6年度）
- 事前調査・修理計画
- 素屋根の建設
- 部材の解体
- 野地板・瓦の修理
- 組立・完成！

※1 「ししぐら」様画の一連で、経年の経過と新するものを上層に三つおくもの。
 ※2 「クラウドファンディング」の略。

市内の寺社ではじめて！
クラウドファンディングにチャレンジ！！

弘法大師とゆかりのある柳谷観音・楊谷寺は、古くから眼福平癒の寺院として知られる。近年はSNSなどで、花手水のお寺として人気を博し、平日から多くの参拝者が訪れる。しかし、境内には老朽化が進む建物があり、特に阿弥陀堂は深刻な状況だ。屋根の破れが激しく、雨漏りによって畳にカビやキノコまで。修理には府指定登録文化財としての補助金を活用してもなお多額の費用が必要。社会の変化や高齢化により寄付の額も減っているなかで、資金の確保は容易ではなかった。住職は、お寺を守っていくためにできることは何でもしようとして、クラウドファンディングの挑戦を決意。手探りのなか、費用の一部

広くご縁を結ぶために



日下俊実 Shumei Kusaka
 第三十一世住職。花手水をはじめアートやSNSなど、次の世代に向けた様々な取り組みにより幅広い世代から愛される寺院へと奔走中。

をお願いするにしましたという。結果は、目標金額を大きく上回った。インスタなどには、若人からたくさんのお励みメッセージが届き、遠方から山目的で訪問する人たちも増えたこと住職は感激しており、「信者さんでない多くの方々からもご協力、ご賛同いただいたことは本当にうれしかったです」「クラウドファンディングを通じて、楊谷寺を知ってくれた方もいて、修繕が大変な状況について多くのご支援をいただいたと語った。



立願山 楊谷寺 全景

文化財の保存修理

補助金を活用する

長

岡田満宮の社務所は、大正時代に建てられたもので、かつては連歌所として使われた。市有文化財に指定されており、市・府の補助を受けて屋根の葺き替えを行った。京都府では、指定の有無にかかわらず、文化資産を活かして地域活力の向上を目指す事業に対しての補助制度もある。



葺き替えの連歌所（令和4年度）

助成金を活用する

寂

照院の金剛力士立像に納められていた「結縁名」には、康永3年（1344）、像をつくるときに寄付した乙訓郡などの村と人々の名が記され、裏面には「御成敗式目」が書かれている。損傷が著しかったものの、文化遺産を将来の世代へ継承するための民間（朝日新聞社）助成を受けて、修復作業が行われた。



修復前の様子（令和4年度）

みんなの力で守っていく。



未来に繋いでいく
責任を強く感じる。

クラウドファンディングに挑戦する

西

山浄土宗総本山の光明寺には、指定・登録の有無にかかわらず、数多くの文化財があり、それらを保管する宝物庫の老朽化が深刻であった。保管の文化財に傷みやカビが覚発し、急遽修理の必要が生じたりと負担が増す中で、クラウドファンディングを実施。力強いご支援を受けることができ、宝物庫改修や文化財の修復に取り組めるめどが立ったよう。



現在の宝物庫

Topic!

近年、文化財を守っていくための取り組みとして、クラファンが注目されています。本号では、そうした文化財所有者が次世代へ文化財を繋いでいくために、日々ご尽力されている事業にフィーチャーしました。情報発信にはYouTubeやとの連携、ライブ配信も！

SPECIAL
INTERVIEW

文化財YouTuber に聞きました！

長岡京市の文化財に約40年にわたり携わってこられた本市元職員の百瀬ちどりさん。今も研究や講演会などでご活躍されていますが、ほぼ毎日動画を配信するYouTuberとしても話題となっています。まちの歴史や文化を、風景や伝統行事などの映像を通じて紹介。ほぼ毎日、自身のスマホで撮影して配信を続けています。「歴史的な建物だけでなく、全体の風景が見えるように撮影することを意識している」と語る百瀬さん。市史編さんなどを通じて、昔の写真や映像が歴史資料になると強く感じたそうです。だからこそ、将来見られなくなってしまう景色を残したいという強い思いで撮影をし、タイトルにも西暦と場所を必ずいれて、『記録』として保存・整理しておられます。また、今年度は楊谷寺とコラボしてインスタライブにも挑戦！「リアルな言葉で話せるし、反応があるのもおもしろい。新しいこともどんどん展開していきます」と、次の構想を膨らませていました。皆さんも、スマホを片手にまちの魅力を保存！?してみてもはどうでしょう。



ホームページやSNSでもご活躍！



百瀬ちどりさんのホームページではご自身が撮影された風景写真をフリー素材として公開しています。2019年頃からはYouTubeやフェイスブックなどを通じて、歴史・文化・文化財の魅力を紹介します。



百瀬さんのHP

Event

文化財防火デー

毎年1月26日は、「文化財防火デー」です。文化庁・消防庁をはじめ、文化財所有者、地域住民等が連携・協力して、全国で文化財防火運動を展開しています。

文化財防火運動

令和6年1月23日(火) - 29日(月)

毎年1月26日の前後3日間が文化財防火運動期間です。毎年順番に市内各所で放水や文化財の運び出しなどの消防訓練を実施しています。

<今年度の文化財消防訓練> 東小南決行・雨天中止

日時：令和6年1月28日(日) 午前9時30分～10時30分

会場：乙訓寺(長岡京市今里三丁目14-7)

文化財防火デーの制度は、昭和30年、文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、地域住民の文化財愛護に関する意識の高揚を図る目的で制定されました。その契機は、昭和24年1月26日に、現存する世界最古の木造建造物である法隆寺(奈良県)の金堂から火出し、壁面が焼損したことで、文化財保護の危機を憂慮する世論の高まったことによります。

文化財の Trivia トリビア

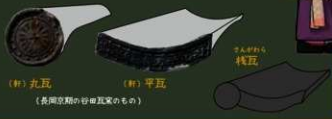
Q.

お寺の瓦って、家の屋根の瓦と何か違うの？

A.

古いお寺の屋根の軒先を見ると、模様のある丸い瓦と平らな瓦があることに気付きます。前者を丸瓦、後者を平瓦と言います。これらは中国・朝鮮半島から仏教の伝来とともにもたらされた建築技術の一つです。一方、丸瓦と平瓦が合体した形状の椀瓦は、江戸時代に誕生した新しい技法で、軽量化されたことで一般住宅にも広く使われるようになりました。

長岡京をほぼ瓦
寺院の屋根にしか
使えなかったのだが



(軒) 丸瓦

(軒) 平瓦

まんから
椀瓦

(長岡京期の砂瓦葺の瓦)

表紙：楊谷寺花手水

中国写真：楊谷寺、光明寺 提供

『Moshi-mosu V』Winter vol.24

バックナンバー
はこちら！



発行：長岡京市教育委員会文化財保存活用課 京都府長岡京市天神4丁目1番1号/令和6(2024)年1月